



第9回高大連携教育研究会のご報告



宮下学長のご挨拶 (アクティブ・ラーニングスペース)

AI(人工知能)やバイオテクノロジーの発展、経済のグローバル化の進展、急速に進む少子高齢化と人口減少など、日本社会の急激な変化に伴い、社会で必要とされる人材に求められる知識や能力も変わりつつあります。

そのような状況の下、中等教育・高等教育で教えるべき基礎的な知識(コンテンツ)と身につけさせる能力(スキル、コンピテンシー)とは何か、そして現代社会における「教養」とは何なのかを、高校・大学の連携の中で考える研究会を開催しました。

当日は、相原高校、高浜高校、茅ヶ崎高校、舞岡高校の先生方にご参加いただき、本学からも宮下学長をはじめ、12人の教職員が参加し、「基礎学力」「教養」「AO入試」「高大接続」のキーワードに関して多岐にわたる意見・情報交換がなされました。次回の研究会にむけて、有意義なブレインストーミングの場となりました。

教養と基礎学力 ～高大連携と高大接続から考える～

総合ビジネス・情報学科 加藤 美樹雄

社会人になる前に身につけるべき「教養」とは何か？

「教養」には、学力レベルなどの量的に測れるものもあれば、コンピテンシーなどのように量的に測ることの難しいものもある。

今回の報告では、これらのうち、基礎学力の定着という部分から、高大連携の重要性とそれを実行するにあたっての課題点を取りあげて発表した。報告にあたっては、基礎学力を中学3年程度のもので定義し、これらがしっかりと身につけていない学生に対して、基礎学力を定着させるための取り組みを高大で連携して行っていく重要性を論理的に説明した。

これらは、すでに高校は高校で、大学は大学で、それぞれ独自に取り組みがなされている現状である。これらの現状について、高大が連携して取り組みを行っていく場合の様々な課題点が挙げられた。例えば、入試方法の多様性、高校によって生徒の状況が異なるなどである。

今後は、これらの課題点について、本学の学生の状況を整理し、連携校と、より良い接続が可能となるよう、検討を進めていきたい。

さらに、一部の専門高校とのビジネス基礎教育の連携についても、今後の検討課題と考えている。

日時：平成29年9月5日(火) 15:00～17:00

会場：湘北短期大学6号館2F 図書館
アクティブ・ラーニングスペース

テーマ：「社会人として必要な基礎学力と教養」

● 「教養と基礎学力」

総合ビジネス・情報学科 加藤 美樹雄

● 「リベラルアーツ科目再考」

総合ビジネス・情報学科 小棹 理子



加藤美樹雄 准教授



会場風景(アクティブ・ラーニングスペース)



小棹理子 教授

リベラルアーツ (LA) で何を教えるべきか。この「コンテンツ」に関する問いの答えを探し始めて5年目を迎える。

本学の LA 科目のカリキュラムは、平成 18 年に「“社会や人との関係を作るためのコミュニケーション能力”、“状況を的確に把握し主体的かつ柔軟に行動する能力”、“対象に興味を持ち、課題を発見し論理的に考える能力”を総合的に修得し、社会人としての基礎を身につけるための科目群」、として再編成された。これら3つの能力は、いわゆる「スキル」や「コンピテンシー」と呼ばれるもので、アクティブラーニング (AL) などの教育手法を用いて育成されるものである。LA では AL を実施している科目が多いことから、今年度より LA のシラバスにはループリックが記載されることになり、学修目標を具体的に明示することになった。

平成 26 年度に学科必修である「情報リテラシー/情報リテラシー演習」のコンテンツ刷新に着手した。平成 27 年度には、「MS-Office の使用方法」とは異なる観点で独自のテキストを作成し、複数教員で内容と評価法を議論し、その成果をループリックとして共有し、これをベースとして平成 28 年度に内容をほぼ確立した。同じく学科必修である「日本語リテラシーI/日本語リテラシーII」では平成 29 年度にコンテンツの見直しが行われた。就職試験にも登場する「言語能力」を意識した日本語力の育成が強化され、複数教員で教授内容と評価の統一をはかるためにループリックが活用された。

必修のリテラシー系科目の内容の見直しが進行する一方、選択科目で「社会人として必要な基礎知識」として何を教えるべきなのか、というコンテンツの問題が残っている。さまざまな考え方があろうが、この問いに対する答えのひとつは、専門科目との乗り入れであろう。スタンフォード大学では、専門科目の中から一般 (共通) 科目として多くの学生にとらせたい科目を選択、再編した。もうひとつの考え方は、社会人の「常識」「基礎学力」を確実に身につけさせるために科目数を絞って用意する、ということであろう。現時点では「社会」「芸術」「科学」の三分野で社会人として知っておかなくてはならないこと、知っておいたほうが良いことを伝えるべきではないかと思っている。

「常識」と「基礎学力」とは何か、本研究会で今後大いに議論して答えを見出せば幸いである。

生徒につけたい力とは? ~ 高校の現場から ~ 神奈川県立相原高等学校 家庭科 3年担任 橋元 祐子

現在、相原高校 3 年・家庭総合では、文化祭に向け掲示物を作成中である。そのテーマは「少子化の原因を探る ~ その影響は?」。

地方であれば、商店街の衰退や学校の統廃合などを目の当たりにすることで、わざわざ授業で取り上げるまでもないのかもしれない。しかし、新聞も読まず、TV ニュースも見ず、ゲームと SNS にどっぷり浸かった首都圏の高校生には、半ば強制的に少子高齢化や人口減少という現実を見せていくしかない。

興味・関心ごとに班を構成し、信頼できる DATA を二つ以上探すという条件で、わかったことを文化祭の来校者にも知ってもらおう、と呼びかけた。

今朝の HR で触れたニュースは「安室奈美恵の引退」について。「東京オリンピックの閉会式にふさわしい女性シンガーは誰だと思う?もし、AKB グループが何百人も踊ったら、外国から日本はどう見える?日本の人口減少や借金が膨らみ続けていることは、もう他国に知れ渡っていること。その日本を代表するアーティストが大量の JK 風アイドルでいいの?引退しても閉会式だけ安室奈美恵に出てもらってどう?」と、生徒に問いかける。

掲示物のテーマとして「草食男子が増えたから」、「会いに行けるアイドルが増えたから」などが挙げられ、一見何の関係もない「アイドル」と「少子化」が実は結びついていると生徒は気づき始めた。

「理想が高すぎるのが少子化の原因。王子もお妃もない!もっと現実を見よう!」と自分たちでメッセージを完成させた班に、「今の 20 代、30



代よりも10代の方が期待できるかもね！」と、私は褒めたたえた。

一方、少子化の影響のひとつに医療費や年金といった社会保障の負担が増える、という問題がある。例えば、「美容クリームは市販より、病院で処方箋をもらって買うと安上がり！」といった目先のお得情報を鵜呑みにすると、将来的には医療費の使途が制限、さらに医療費の負担額が増え、その結果、手取り収入が減るという予測が立つ。難しいテーマだが、1学期に学んだ「自立できる給料～年金の負担と給付のしくみ～130万円の壁が下がったことに賛成？」を思い出させ、薦めるとチャレンジする班も現れた。

不都合な真実とも言うべき少子化の原因も、その影響も、負担と給付の見直しも、「目を背けずに自分事としてとらえる」ことが、現代社会における「教養」ではないのか。

「幸せボンビーガールは住民票を移して選挙に行くのかな？国民健康保険や年金の掛け金は納めているのかな？」人気のTV番組を見ても、そんなツッコミを入れられるようになってほしい。流行を楽しみつつも分析する視点を持ち、目先のお得に飛びつき、踊らされるのではなく、広く社会に目を向け、長期的展望を持って判断する力を身につけてほしい。

卒業まで半年を切った今、3年間育ててきた生徒を社会に送り出す前に、「生徒につけたい力とは？」を改めて整理すると、こんなところだろうか。

出張授業(前期)のご報告

今年度前期、右の通り本学教員が連携校で出張授業を行い、たくさんのアンケートをお寄せいただきました。

【アンケート抜粋】

保育のためになる話がとても勉強になり、より「保育の勉強をしたい」「保育士になりたい」という気持ちが高まりました／夏休みに保育園のインターンシップに参加するので、教わった「赤ちゃんの目線に立つ」ということを忘れずに体験したいです／保育士という仕事は人を形成する大事な職業なのだと感じました／やっぱり保育士っていいなと思いました。夢に向かってがんばりたいと思います／知識を増やし良い先生になりたいです／自分が何色ベースで春夏秋冬でいうと何なのかも知れて、すごく貴重な体験になりました。受けて良かったとすごく思います／自分の身近な講座で楽しかったし役に立つことを知れた

日時：平成29年6月19日(月) 14:30～15:50
高校：舞岡高等学校
授業：「赤ちゃんのコミュニケーション-子どものことば」
保育学科准教授 高木友子



日時：平成29年7月10日(月) 14:00～16:00
高校：茅ヶ崎高等学校
授業：「赤ちゃんの世界と大人の世界」
保育学科准教授 照井裕子



日時：平成29年7月13日(木) 13:15～14:15
高校：愛川高等学校
授業：「ピアノに親しむ」
保育学科講師 赤井裕美



日時：平成29年8月4日(金) 9:30～10:20
高校：高浜高等学校
授業：「似合う色の見つけ方」
生活プロデュース学科講師 小出真理子



プログラミング・ワークショップのご報告

8月22日(火)、連携校の川崎総合科学高校において、電子工作部やパソコン部の生徒さん14名を対象にプログラミングのワークショップを開催しました。

いろいろなセンサーからの入力に応じ、LEDを光らせたり、スピーカーを鳴らしたりするプログラムを作成。

入力と出力の組み合わせは、生徒さんが自分で考えて選択できるようにしました。超音波センサーとスピーカーを組み合わせ、手とセンサーの距離によって音程が変わるテルミンのような楽器を作った生徒さんたちもいて、「文化祭で使えるかな」などと話しながら、和気あいあいとした中で進められました。

日時：平成29年8月22日(月) 13:00～16:00
高校：川崎総合科学高等学校
授業：「プログラミング・ワークショップ」
総合ビジネス・情報学科教授 内海太祐



一日体験授業のご報告

7月10日(月)、今年も連携校の川崎総合科学高校2年生39名が、学内見学と総合メディア・情報学科の模擬授業を体験しました。10時本厚木発、本学のスクールバスに乗車して大学に到着、全体説明と総合ビジネス・情報学科の説明を受けたあと、11時より模擬授業の「映像表現」、「コンピュータ基礎」を受講しました。キャンパスレストランで昼食の後、学内施設と「WEBプログラミング」「マーケティング論」「情報リテラシー」の授業を見学し、約1時間の「特別授業：バーチャルリアリティーとオーグメンティッド・リアリティー(VRとAR)」を受けて15時のバスで帰路につきました。

感想として、“VRやARなどの機器に触れることができたり、サーバを見ることができたりして、とても面白かった”、“大学の授業を体験できたのは新鮮で、とても良い経験になったと思った。高校にはない、様々な最新の機材は非常に興味深かった”、“とても参考になる内容で、他の短大も少し見ておこうかなと思った”、“すぐに就職したいのならば短期大学という選択もありなんだと感じた”、など有意義な一日であったことが伺えました。

この一日体験授業は、進路を考え始める高2の時期に、クラス単位で体験されることをお勧めします。



湘北短期大学の高大連携 WEB サイト リニューアル

<http://scopp.shohoku.ac.jp/>

今年度6月、湘北短期大学の高大連携プログラム専用サイトをリニューアルいたしました。湘北短期大学ホームページTOP(下方) [「高校教員の方」](#)からアクセスしていただけます。あわせて「県立高校学習活動コンソーシアム」(<http://www.pref.kanagawa.jp/ent/f535364/>)にも、参加機関・団体としてプログラムを提供しています。出張授業をはじめ、各種プログラムは随時、お申込みを承りますので、ぜひ、高校の現場でご活用ください。

Twitter はじめました！

湘北短期大学リベラルアーツセンター @shohoku_lac

リベラルアーツセンターの活動、高大連携のイベント(出張授業、研究会など)をできるだけリアルタイムでお知らせしていきます。ぜひ、フォローをお願いいたします。

湘北短期大学リベラルアーツセンター @shohoku_lac

第44回 湘北祭のご案内

10月21日(土)・22日(日)に開催

今年のテーマは「WITH～繋げ 繋がる湘北祭」。毎年、好評の保育学科のパフォーマンスをはじめ、各団体の趣向を凝らした模擬店、学習成果の展示や軽音楽ライブなど様々なイベントが行われます。学生たちが自主的に企画考案するエネルギッシュな学園祭。ぜひ、足をお運びください。10月21日(土)・22日(日)の二日間、9:00～16:00(22日は15:30まで)開催します。

あわせて、入試相談コーナーも設置しています。



湘北短期大学リベラルアーツセンター

(担当：北野・岡廣)

〒243-8501 神奈川県厚木市温水 428
TEL:046-247-3131/FAX:046-247-3667
E-mail:LAC@shohoku.ac.jp
URL: <http://scopp.shohoku.ac.jp/>



湘北
ナビットくん

高大連携通信 vol.14

発行日：平成29年10月17日(火)

発行元：湘北短期大学
リベラルアーツセンター